

「つくし病棟」のご紹介（南2病棟）

特徴

- ❑ 小学生から高校生ぐらいまでの年齢の子どもたちが中心です。
- ❑ 不登校やひきこもりなど、学校や家でうまくいかないことが多く、生活環境を変えた方がうまくいくと思われる子どもや、児童精神科的な病気で苦しんでいる子どもが利用しています。
- ❑ 訪問学級が院内にあり、小学校と中学校の授業を受けることができます。
- ❑ 児童精神科医師、看護師、保育士、教師、作業療法士、心理療法士、ソーシャルワーカーなどがさまざまな角度から治療を支援していきます。
- ❑ 子どもたちが一緒になって活動できる楽しい場を提供しています。

病棟の歩み

昭和57年に、当院が児童思春期の情動行動障害に対する国立病院の基幹施設に指定されたことを受けて、情動行動障害センターが開設されました。同センターの開設を機に児童精神科部門が正式に発足し、以来、当院では、20年以上にわたり主に行動療法的な観点からの児童精神医学の臨床実践・研究・研修を行ってまいりました。当病棟では、病状が比較的安定した高齢の成人患者様と一緒に、症状のために家庭の中での生活が困難になってしまったさまざまな子どもたちに、ひとりひとりにじっくりと時間をかけながら治療を行ってまいりました。また、院内に中原養護学校の訪問学級を設置し、学校に復帰するための支援も行ってまいりました。

しかし、より専門性を高め、質の高い医療を提供するために、平成19年7月に、当病棟は20歳未満の子ども中心の定数30名の児童思春期病棟となり、名前も新たに「つくし病棟」と改名しました。平成21年9月より学校や社会の中で傷つき、生活全体が上手くいかなくなっている、不登校や引きこもりの子どもが、子どもの集団や病棟の訪問教育のなかで自信を取り戻していく事を目指し『つくし合宿』を開始しました。今年で5年目を迎え卒業生が進学したり、就職したりの報告が来るようになりました。

平成26年3月には、新しい建物となり定数も40名となりました。個室36室と2人部屋が2室となっています。子どもたちが落ち着いて勉強や作業を行うための学習室と楽しく時間を過ごすための談話室を設置し、病棟の作業性と快適性を高めました。また、病棟専用の500冊程度の児童図書と療育活動を充実させるためのプレイマットや畳部屋のスペースも設置しました。さらに、病棟規則や集団療法も見直して、より幅広いタイプの子どもの患者様に対応するための工夫を行っております。

今後も従来多かった家庭の中での生活が困難になってしまった子どもたちのみならず、家庭の中では大きな問題はないものの、家庭の外へ出て行くことが困難になってしまった不登校やひきこもりの子どもたちの社会復帰の場として、今まで以上にご利用いただきやすくなったものと考えております。